倫　　理

（解答番号 1 ～ 37）

第１問　以下は，小学校卒業時のタイムカプセルを，10年後に開ける友人ＡとＢの会話である。この文章を読み，下の問い（**問１～10**）に答えよ。（配点　28）

Ａ：「10年後の自分への手紙」か。時の流れは早いね。よし，僕のを開けるよ。

元気？　10年後の世界はどう？　今よりきれいで，平和ならいいな。

Ｂ：残念でした。時は空（むな）しく流れる。ⓐ環境破壊も貧困も紛争もひどいね。

Ａ：でも，傍観は許されないよ。僕らはもうⓑ大人だから，これからは自分たちで世界をよくしていこうよ。理想を実現するために，ⓒ行動するんだ。

Ｂ：理想って何？　価値観なんて相対的で，時代ごとに変化するものさ。

Ａ：その変化はⓓ進歩なんだよ。歴史は，人権尊重という正義を実現していく。

Ｂ：人権なんか大衆好みのスローガンさ。ⓔ君の言う正義なんて，その時代の支配者のご都合にすぎないね。さて，僕のを開けるか。

かっこいい大人になってる？　弱い者を助ける正義の味方でいこうぜ！

Ａ：いやー，昔はいいこと言ってるねぇ。そう，苦しむ人を助けるだろ，絶対！

Ｂ：それは助けるさ。苦しんでいる人に接したら，否応（いやおう）なく動いちゃう。でも，「絶対正しい」って言えるのは，そこにある苦しみに応える瞬間だけだ。

Ａ：でも，場当たり的な助けだけでは不十分だよ。差別や貧困など，ⓕ社会問題で苦しむ人もいる。だからこそ，万人がⓖ幸せな，理想の社会を作るんだ。

Ｂ：ⓗ「万人」って誰？　人は皆，取替えがきかないのに，万人でくくるのは乱暴さ。理想に目がいくと，今を生きる一人ひとりが見失われないか？

Ａ：だからといって，「今ここ」だけに価値をおいたら進歩がないよ。受け継いだ社会を未来によりよくつなぐ，そんなⓘ責任も大事じゃない？

Ｂ：大事なのは，そこにある苦しみを取り除くこと，その繰り返しだけだ。

Ａ：いや，目の前の現実を変えるためにも，理想は必要なんだ。あるべき未来を描くことは，現在を変える力になる。社会変革に，設計図は不可欠でしょ？

Ｂ：いや，危険だね。設計図どおりの社会が目的になって，僕らは，その道具にされそうだ。大切なのは，遠い未来じゃなく，生きている人間なんだ。

問 1　下線部ⓐに関して，これらの問題は，一つの国家だけではなく，世界全体で取り組まなくてはならない課題である。こうした問題と，その対応についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 1

① 地球環境問題に対応するため，1992 年の地球サミットでは，「持続可能な開発」という理念が共有され，「リオ宣言」が採択された。

② テロリズムへの対応で重要なのは，エスノセントリズムを支持しつつ，テロ行為の歴史的・文化的背景を理解することである。

③ 非人道的兵器である地雷の廃絶を訴える国際世論の高まりを受けて，アメリカや中国を中心に，1997 年に対人地雷禁止条約が結ばれた。

④ 女性の地位向上を目指し，国際人口・開発会議では，雇用機会均等を確立するために，リプロダクティヴ・ヘルス／ライツを宣言した。

問 2　下線部ⓑに関連して，「大人」と「子ども」をめぐる概念についてレヴィンが述べた内容として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 2

① 自らの欲求を満たすことのできない大人が，幼児期の発達段階に逆戻りしたかのような態度をとる現象を見いだし，退行と名付けた。

② 子どもと大人のはざまにおり，どちらの世界に対しても帰属意識をもてずに不安定な状態にある青年を，マージナル・マン（境界人）と呼んだ。

③ 近代以前のヨーロッパでは「子ども」という概念が確立されておらず，中世では 7 歳頃以降の人間は「小さな大人」とみなされていた，と指摘した。

④ 年齢的には大人になっても心理的には子どものままでいようとする青年の有り様を，ピーターパン・シンドロームと名付けた。

問 3　下線部ⓒに関連して，次のア～ウは，行動に関する様々な考え方を説明したものであるが，それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 3

ア　概念や思想の真理性は，それが実生活のなかの具体的な行動や実践においてどの程度「有用性」をもつかによって判断されねばならない，と述べた。

イ　人間の行動や意識には無意識の領域が深く関与すると考え，とりわけ無意識における人類共通の性質に着目して「元型」と呼ばれる概念を提唱した。

ウ　青年期の自己探求において，それまでに経験したことのない様々な役割を実際に行ってみることを「役割実験」と呼び，その意義について説いた。

①	ア　ジェームズ	イ　フロイト	ウ　エリクソン
②	ア　ジェームズ	イ　フロイト	ウ　オルポート
③	ア　ジェームズ	イ　ユング	ウ　エリクソン
④	ア　ジェームズ	イ　ユング	ウ　オルポート
⑤	ア　ウィトゲンシュタイン	イ　フロイト	ウ　エリクソン
⑥	ア　ウィトゲンシュタイン	イ　フロイト	ウ　オルポート
⑦	ア　ウィトゲンシュタイン	イ　ユング	ウ　エリクソン
⑧	ア　ウィトゲンシュタイン	イ　ユング	ウ　オルポート

問 4　下線部ⓓに関連して，次の**ア**～**ウ**は，進歩や進化を論じた思想家の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

4

ア　ショーペンハウアーは，世界史を「自由の意識の進歩」と捉え，一人の人間が自由であった時代から，万人が自由な時代に進むと論じた。

イ　スペンサーは，進化論を社会に適用し，自由競争と適者生存のメカニズムが国家等の干渉を受けないとき，分業が進み社会が発展すると論じた。

ウ　ヴォルテールは，伝統的身分や宗教的権威が君臨する旧制度を批判し，階級闘争による歴史の必然的進歩が，革命によって成就すると論じた。

① **ア**　正　　**イ**　正　　**ウ**　正
② **ア**　正　　**イ**　正　　**ウ**　誤
③ **ア**　正　　**イ**　誤　　**ウ**　正
④ **ア**　正　　**イ**　誤　　**ウ**　誤
⑤ **ア**　誤　　**イ**　正　　**ウ**　正
⑥ **ア**　誤　　**イ**　正　　**ウ**　誤
⑦ **ア**　誤　　**イ**　誤　　**ウ**　正
⑧ **ア**　誤　　**イ**　誤　　**ウ**　誤

問 5　下線部ⓔに関して，正義の捉え方を述べた次の文章を読み，文章中の [a] ～ [c] に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 [5]

正義は，古代ギリシアにおいて知恵や [a] とならぶ四元徳の一つに数えられ，よき政治秩序に必須とされた。しかし，正義とはその時々の強者の利益にすぎないという考え方もまた，すでに古代ギリシアに登場している。今日の民主社会においても，民主主義が，多数決による支配を安易に意味するならば，正義とは，多数派の意見の別名となりかねない。19 世紀のミルは，[b] において，またミルに影響を与えたトクヴィルは，『アメリカのデモクラシー』において，画一的な世論が反対意見を封殺する「多数派の専制」について論じている。こうした見方は，大衆社会が全体主義の温床となったと捉える 20 世紀のアーレントにも受け継がれた。他方で，正義を単なる多数派の意見に還元しないためにも，正義を普遍的原理として理論化する試みがなされている。例えば，ロールズは，[c] の考えを新たに活(い)かしつつ，基本的な財の分配をめぐる平等の原理として正義を捉え直し，現代思想に大きな影響を与えた。

① a 友　愛　b 『正義論』　c 功利主義
② a 友　愛　b 『正義論』　c 社会契約説
③ a 友　愛　b 『自由論』　c 功利主義
④ a 友　愛　b 『自由論』　c 社会契約説
⑤ a 節　制　b 『正義論』　c 功利主義
⑥ a 節　制　b 『正義論』　c 社会契約説
⑦ a 節　制　b 『自由論』　c 功利主義
⑧ a 節　制　b 『自由論』　c 社会契約説

問 6　下線部ⓕに関して，現代日本の社会問題についての記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 6

① 延命治療技術が進歩するなかで，人が人生の最期まで人間らしい尊厳をもって生きることを保障するために，末期患者に対して身体的・精神的サポートを行うホスピスの充実が求められている。

② 目先の利益に囚(とら)われた開発により環境破壊が進むなかで，将来世代の生存可能性を確保するために，未来に生きる人々への責任を重視する世代間倫理の確立が求められている。

③ 地域社会の役割が見直されるなかで，高齢者や障害者が社会参加し充実した生活を送るために，公的支援のみならず，ボランティアやNPO活動の重要性が高まっている。

④ 地域コミュニティが衰退し，拡大家族が増加するなかで，閉鎖的な家族内での暴力や虐待が問題視されるようになり，公的機関など外部からの介入や援助の必要性が高まっている。

問 7　下線部ⓖに関連して，次の二つの**図**は，「幸せ」および「不安や悩み」について，小学校5・6年生，中学生，高校生等を対象者群とし，2004年と2009年に実施した調査の結果である(対象者数の合計：2004年は1,069人，2009年は1,098人)。**図1**は，「現在，幸せだと思うか」について，**図2**は，「現在，不安や悩みを抱えているか」について，それぞれあてはまるか否かを対象者に尋ねたものである。

次ページの**A**～**C**のうち，**図**の示す結果を正しく読み取って適切に説明したものはどれか。その組合せとして正しいものを，次ページの①～⑦のうちから一つ選べ。 **7**

図1　幸せだと思う者の割合

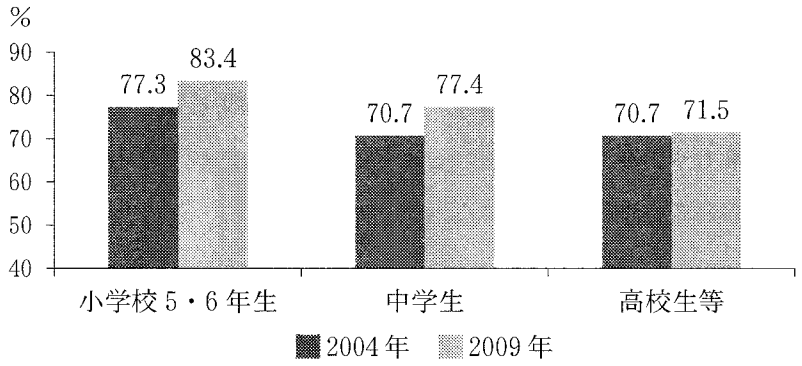
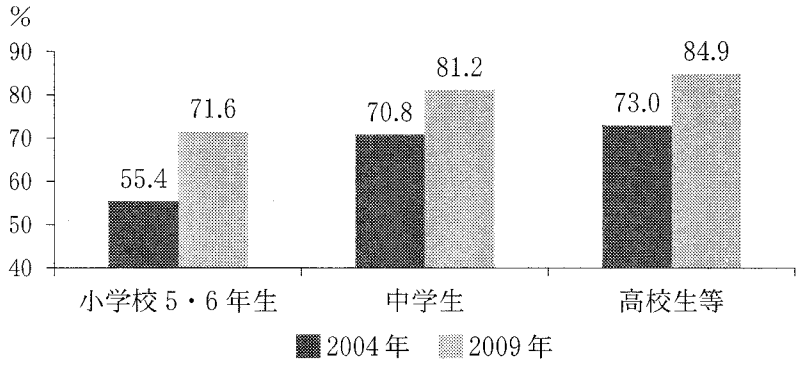


図2　不安や悩みを抱えている者の割合



(注)　高校生等とは，高校生と，各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。

(資料)　厚生労働省『全国家庭児童調査』(2004年，2009年)により作成。

A　**図1**で2004年に小学校5年生だった子を想定してその変化をたどってみよう。2009年には高校1年生だから，高校生等の項目を見ると，数値が下がっているね。つまり，この子は5年前よりも幸せと思わなくなった，と読めそうだ。同じ様に，**図2**では，この子の不安や悩みは5年間で増えたと読めるよね。……うん，なるほど，小学生から高校生にかけては，自立に関わる困難な発達課題がかなり多い時期だから，この子の変化にも影響を与えているのかもしれないね。

B　**図1**と**図2**それぞれについて，隣接する対象者群の間の数値の差に着目してみよう。いずれの**図**でも特徴的なのは，中学生と高校生等との間の数値の差よりも，小学校5・6年生と中学生との間の数値の差の方が大きいということだね。特に**図2**に注目してみると，その傾向が顕著だと言えそうだね。……うん，このあたりの時期は，青年期へと移行しつつある頃だから，アイデンティティの確立へ向かおうとする際の心の揺らぎが，こうした差異の大きさに関係しているのかもしれないね。

C　各年齢層の**図1**と**図2**の数値の差を見てみよう。最も差が大きいのは，2004年の小学校5・6年生で，**図1**では77.3％，**図2**では55.4％だね。この年代は，2009年もやや差が大きいよ。うん，だから2004年では21.9％，2009年は11.8％の人が「幸せだと思っており，かつ，不安や悩みを抱えていない」ということになるね。……なるほど，この内容の割合が他の年代に比べて大きいという事実は，人間関係が豊かになる思春期前期に特有の傾向として読み取ることができそうだね。

① **A**　② **B**　③ **C**
④ **A**と**B**　⑤ **A**と**C**　⑥ **B**と**C**
⑦ **A**と**B**と**C**

倫　理

問 8　下線部ⓗに関して，ここで示された疑念は，カミュが小説『ペスト』で探究したテーマの一つである。作中で，人類救済に情熱を燃やすパヌルー司祭は，ペストによる惨状を神の計画とみなし，人類を高みへもたらすものとして，その意義を説く。次の文章は，医師リウーが，そうしたパヌルーの考えを批判した発言である。リウーの考えの説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 8

パヌルーは書斎の人です。人の死ぬところを十分見たことがないんです。だから，真理の名において語ったりするんですよ。しかし，どんなにつまらない田舎の司祭でも，ちゃんと教区の人々に接触して，臨終の人間の息の音を聞いたことのあるものなら，私と同じように考えますよ。その悲惨の優れたゆえんを証明しようとしたりする前に，まずその手当てをするでしょう。……人類の救済なんて，大袈裟（おおげさ）すぎる言葉ですよ，僕には。僕はそんな大それたことは考えていません。人間の健康ということが，僕の関心の対象なんです。まず第一に健康です。

（『ペスト』より）

① 人々にとって病とは，身体の物理的な機能不全にすぎないが，人はともすれば，病を宗教的に意味づけし，勝手な治療を行うのではないか。

② 人々にとって何より大事なのは日々の健康であるが，他者の救済を熱望する人は，ともすれば，自己の健康を二の次にしてしまうのではないか。

③ 宗教者が唱える愛は，人類全般という抽象的観念に向けられたものであり，具体的な個々人への愛とは異なるのではないか。

④ 顔の見える隣人に寄り添うことなく，人類救済を語る人は，現在の苦しみを救済へのプロセスと捉え，具体的対処を怠るのではないか。

問 9　下線部ⓘに関連して，様々な思想家が責任や責務について論じてきた。その説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 9

① マキァヴェリは，政治を道徳や宗教から分離し，あるべき理想ではなく，ありのままの現実を起点とする思考こそ，為政者の責務であると論じた。

② ウェーバーは，職業召命説に依拠し，神の道具として与えられた職業に励むことが，神を讃(たた)える我々の責務であると主張した。

③ エラスムスは，熱狂的な宗教改革を批判し，博愛精神に基づいて教会の現状を維持することが，神に対する我々の責任であると説いた。

④ ガリレイは，天動説に対する教会の弾圧に抵抗し，宗教裁判においても自説を曲げないことで，真理に対する科学者の責任を立証した。

問10　本文の内容に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 10

① 普遍的価値の存在を認めるAは，総体としての歴史は進歩を示していると主張する。人々は，人権尊重など，正義を実現してきたからである。他方，時の流れの空しさを主張するBにとって，歴史とは，盛者必衰の理（ことわり）を表すにすぎない。未来の設計という考えを否定するBは，個々人が瞬間を好き勝手に生きることに価値を認め，あくまでも現在を重視する。

② 時間は空しく流れると考えるBは，進歩を礼賛する者が，歴史を正義実現のプロセスとみなすことに疑問を抱いている。理想の未来が重視されるとき，現在の苦しみがなおざりにされかねないからである。他方，歴史の進歩を主張するAは，社会正義という理想の実現には，個々人の献身的な行動が不可欠であり，多少の犠牲もやむを得ないと反論する。

③ 社会規範は，時間のなかで変化すると考えるBは，普遍的な社会正義の存在を疑問視する。行為の正しさは，苦しむ他者との具体的関係においてのみ，認め得るからである。他方，Aは，Bの立場では社会の歪（ゆが）みがもたらす苦しみに，社会的対応ができないと反論する。未来への責任を強調するAは，理想社会を構想することに，現在を変革する原動力を認めるのである。

④ 社会規範は，時間によって変化しないと考えるAは，普遍的な社会正義の存在を認めている。人類には，本性上，人権尊重の精神がそなわっており，それはいつの時代でも立証されてきたと主張する。他方，正義を支配者の都合とみなすBは，苦しむ他者と遭遇する瞬間にのみ，正しい行為の存在を認める。瞬間にだけ，時間の相対性を超えた絶対が現れるからである。

（下 書 き 用 紙）

倫理の試験問題は次に続く。

倫　理

第２問　次の文章を読み，下の問い(**問１～９**)に答えよ。(配点　24)

先哲は，よく生きることを目指して真理を探究した。その際，真理を言葉で十全に語り得るのかが問題となったが，それにもかかわらず，彼らは真理をめぐって ⓐ多くの言葉を語ったのである。彼らが語り続けたことの意義を考えてみよう。

言葉の働きに限界があることは古くから指摘されてきた。老子は，宇宙の根本原理である道は言葉で語り得ないとした。さらに，ⓑ荘子は，言葉は道具にすぎず，道の意味を損なうとして，言葉に囚(とら)われることを戒めた。とはいえ，彼らは，道について，言葉で語り得ないとしつつも，やはり言葉で語ったのである。ここに，言葉が有限であるとしても，人間と言葉が不可分であることが示されている。

言葉で語り得ないということに，むしろ価値を見いだす立場もあった。例えば，キリスト教やⓒイスラーム教では，神は真理であり，その本質は語り得ないとされるが，そのことは，人知を超えた神の偉大さを示すという点で，積極的な意義をもった。そして，それほど偉大な神を言葉の限りを尽くして讃美(さんび)することは，ⓓ神を愛し求める生き方の一部となった。このような生き方は，ⓔ聖典を解釈する豊かな言論活動にもつながった。これらの宗教において，語り得ない神をめぐって言葉を紡ぐことは，神を求める人間の生を充(み)たす意義をもつのだと言えよう。

言葉の限界を自覚しつつも，人間が真理に接近するための手立てとして，言葉の働きを高く評価する者もいた。プラトンにおいて，ⓕイデアの認識とは直観である。とはいえ，彼は，直観に至る方途として，問答の形式によって物事の本質を明らかにするⓖ哲学的対話法を用い，言葉の力を活(い)かそうとした。また，ⓗブッダは，自らが悟った真理は衆生の理解を超えているとして，それを語ることを一度はためらったが，衆生への慈悲の心から，相手に応じた語り方で説法を始めたとされる。彼は，言葉によって真理そのものを語り得るとしたわけではないが，衆生を悟りへと導く働きを言葉のうちに認めたのである。

このように，先哲は，言葉の限界に向き合いつつ，それぞれに思想を展開した。言葉を語ることが人間であることと分かち難く結び付いているとすれば，先哲の営みは，言葉を通して豊かにされていく人間の知と生の可能性を示し，それを開花させていくよう，誘(いざな)っているのではないだろうか。

問 1　下線部ⓐに関連して，孔子とその弟子たちの言行録である『論語』の言葉として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 11

① 智慧出(い)でて大偽あり。
② 巧言令色，鮮(すく)なし仁。
③ 故(ふる)きを温めて新しきを知る。
④ 孝悌なる者はそれ仁の本たるか。

問 2　下線部ⓑに関して，荘子が唱えた「道」についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 12

① 「道」とは，人間の従うべき道徳の規範であり，忠恕に基づいた礼の実践によって体得されるものである。為政者は，この「道」に基づき，己を道徳的に修め，人を感化することによって，はじめて人を治めることができる。
② 「道」とは，万物の根源であるだけでなく，また人間の心のなかにも本性としてそなわるものである。しかし，私欲によってその発露が妨げられているので，うやうやしく慎むことによって，「道」を発揮しなければならない。
③ 「道」とは，差別がなく万物が等しい境地であり，自己の心身を忘れることで体得されるものである。そのためには，偏見に囚われずに，心をむなしくする修養を通じて，天地と一体になることが必要である。
④ 「道」とは，天地万物に内在する客観的なものではなく，人間の心のなかに生まれながらに存在するものである。したがって，外界の事物に「道」を追い求めるべきではなく，心のなかの「道」のままに生きるべきである。

問 3　下線部ⓒに関して，イスラーム教の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 13

① 最後の審判の日，ムハンマドが神の代理人として一人ひとりの人間を裁き，天国と地獄に振り分けるとされる。

② 一日に五回，定められた時に，神の像に向かって礼拝を行うことは，ムスリムの務めの一つとされる。

③ ムハンマドは，モーセやイエスに続く預言者であり，神は，ムハンマド以降も預言者を遣わすとされる。

④ 唯一神への絶対的帰依が説かれ，開祖ムハンマドであっても，神格化の対象とはならないとされる。

問 4　下線部ⓓに関して，次の文章は，言葉を通じて神を求めたキリスト教の伝統について述べたものである。 a ～ c に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 14

祭祀（さいし）や儀礼を通じて神と交わろうとする自然的宗教に対して，キリスト教では，神は人間に言葉で語るというユダヤ教の考え方が継承され，言葉を通じての関わりが重視された。例えば，「出エジプト記」で神が預言者に与えたとされる a は，言葉で表されたものであった。さらに，「ヨハネによる福音書」の冒頭には「初めに言葉（ロゴス）があった。言葉は神とともにあった。言葉は神であった」と記されている。

その一方で，聖書の言葉は多様な解釈にさらされ，異教徒から攻撃されたり，異端者を生んだりすることになった。彼らと論争し，キリスト教の教義を確立するうえで大きく寄与したのは， b である。その自伝的著書『告白』には，「取れ，読め」という子どもの声をきっかけに，「主イエス・キリストを身にまといなさい」という聖書の一節を読んで回心したと記されている。彼にとって，聖書の言葉を解釈することは神を理解する試みであり，罪深き自己を告白することは罪からの救いを可能とする c を語ることであった。

①	a	山上の説教（垂訓）	b	アウグスティヌス	c	理法の展開
②	a	山上の説教（垂訓）	b	アウグスティヌス	c	神の恩寵
③	a	山上の説教（垂訓）	b	パウロ	c	理法の展開
④	a	山上の説教（垂訓）	b	パウロ	c	神の恩寵
⑤	a	十　戒	b	アウグスティヌス	c	理法の展開
⑥	a	十　戒	b	アウグスティヌス	c	神の恩寵
⑦	a	十　戒	b	パウロ	c	理法の展開
⑧	a	十　戒	b	パウロ	c	神の恩寵

問 5　下線部ⓔに関して，次のア～ウは，様々な聖典の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 15

ア　新約聖書は，従来の律法に代わって，人類に無償の愛を注ぐ神への応答として「神を愛し，隣人を愛せ」という新たな愛の掟（おきて）を教え，その掟を全うすることによって罪を贖（あがな）う者は救われるという，福音を説いている。

イ　ユダヤ教の聖典は，世界の創造者である神の啓示の書とされる。神が与えた律法を守ることで救いと繁栄が約束されるという契約の思想が表され，神と契約を結んだ民であるイスラエル人の歴史などが書かれている。

ウ　クルアーン（コーラン）は，預言者ムハンマドに下された神の啓示を記した書とされ，聖職者と一般信徒がそれぞれに実践すべき規律を教えており，シャリーア（イスラーム法）の典拠となっている。

① ア 正　イ 正　ウ 正
② ア 正　イ 正　ウ 誤
③ ア 正　イ 誤　ウ 正
④ ア 正　イ 誤　ウ 誤
⑤ ア 誤　イ 正　ウ 正
⑥ ア 誤　イ 正　ウ 誤
⑦ ア 誤　イ 誤　ウ 正
⑧ ア 誤　イ 誤　ウ 誤

問 6　下線部ⓕに関連して，イデア論を批判したアリストテレスについての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 16

① 善のイデアを追究する生き方を理想としたプラトンを批判して，善は人によって異なるので，各自が自分にとっての善を追究すべきだと説いた。

② 理性で捉えられるイデアを事物の原型としたプラトンを批判して，事物が何であるかを説明する唯一の原理は，事物を構成する質料であるとした。

③ 永遠不変のイデアが存在するとしたプラトンを批判して，すべては現実態から可能態へと発展するのであり，同一であり続けるものはないと述べた。

④ 個々の事物を離れて存在するイデアを真の知の対象としたプラトンを批判して，個々の具体的な事物こそ探究の対象とすべきだと主張した。

問 7　下線部ⓖに関して，次の文章は，プラトンの著作中の人物が，哲学的対話における言葉の価値を，書かれた言葉と対比しつつ述べたものである。この文章の説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 17

書かれた言葉は，あたかも実際に何事かを考えているかのようにみえる。だが，もし君が，そこで言われている事柄について質問すると，いつでも一つの同じ合図をするだけである。それに，どんな言葉でも，ひとたび書き物にされると，それを理解する人のところであろうと，まったく不適当な人々のところであろうと，転々とめぐり歩く。そして，誤って扱われたり，不当に罵られたりしたときは，書いた本人の助けを必要とする。……これに対し，人が対話の技術を用いながら，ふさわしい相手の魂のなかに，知識とともに植え付ける言葉は，自分自身のみならず，植え付けた人をも助ける力をもつ言葉であり，また，実を結ばぬままに枯れることなく，一つの種を含んでいて，その種からは，また新たな言葉が新たな心のなかに生まれ，かくて，常にその命を不滅に保つことができるのだ。そして，このような言葉を身に付けた人は，人間に可能な限りの最大の幸福を，この言葉の力により勝ちとるのである。

（『パイドロス』より）

① 書かれた言葉は，多様な読者に対して十分に筆者の考えを伝えることができないが，対話において適切な仕方で語られる言葉は，どのような対話者の魂をも育て，自ら考えることへと導いていく。

② 書かれた言葉は，内容を理解できない読者に読まれると，言葉本来の力が活かされずに終わる可能性があるが，対話を通じて育まれる言葉は思考する力となり，それを語る人々を支えるとともに，さらなる対話を導く。

③ 書かれた言葉は，文字として明確に表されているので，筆者の考えを正しく伝えるが，対話において語られる言葉は，対話の相手によって変化するので，話者の考えを正確に伝えることはできない。

④ 書かれた言葉は，まったく変化しないため，時とともに説得力を失うが，生きた人間同士がかわす対話においては，それぞれの時代の価値観に即した内容が語られるので，説得力ある言葉が常に生み出されていく。

問 8　下線部ⓗに関して，ブッダが初めて教えを説いた際に語ったとされている四諦についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

18

① 苦諦とは，人間は誰しも，苦しみを嫌い楽を求める心をもっているという真理を指す。また，集諦とは，そうした思いが積み重なって煩悩が増大するという真理を指す。

② 苦諦とは，人間の生の有り様は苦しみであるという真理を指す。また，集諦とは，そうした現実のゆえに，心の集中が妨げられ悟りが得られないという真理を指す。

③ 滅諦とは，煩悩の滅した安らぎの境地があるという真理を指す。また，道諦とは，そうした境地に至るための，極端に陥ることのない正しい修行法があるという真理を指す。

④ 滅諦とは，あらゆる存在はいつか必ず滅ぶという真理を指す。また，道諦とは，そうした道理を心に留めて，禁欲的な苦行を実践すべきであるという真理を指す。

問 9　本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 19

① 先哲は，言葉の限界を補う方法の模索を通じて，言葉で真理そのものを語ることを可能にし，真理をめぐる言論活動を様々に展開していった。人間と言葉が分かち難く結ばれている以上，言葉を洗練させていくことが，人間の知と生の可能性を開くと言えよう。

② 先哲は，真理は言葉で語り得ないという認識のもとに，探究対象を言葉で語り得るものに限定し，そのうえで，哲学や宗教における言葉の役割を再評価した。言葉本来の力を活かすためには，まず，言葉で何を語り得るのかを問う必要があると言えよう。

③ 先哲は，真理探究の際，言葉の限界に直面したが，言葉で語り得ないということ自体に注目して思索を深めたり，言葉の役割を見直しその力を活かそうとした。人間と言葉は切り離せないのだから，言葉と向き合うことが，我々の生の充実につながると言えよう。

④ 先哲は，真理は言葉という手段では捉えられないとして，言葉に頼らずに，悟りや直観によって真理を把握する方法を模索し，それによって生を深めていった。言葉に拘泥することなく，直接的な体験のなかに真理を求めることが，人間の知の営みだと言えよう。

（下 書 き 用 紙）

倫理の試験問題は次に続く。

倫　理

第３問　次の文章を読み，下の問い(**問１～９**)に答えよ。(配点　24)

人は生きるうえで，様々な困難に出会う。だが，日本において先人は，学びを通じて困難を乗り越え，よく生きようと努めてきた。その営みをたどってみよう。

古代，災厄を神の祟(たた)りとみて畏れた人々は，祭祀(さいし)として伝えられたⓐ神への関わり方を，忠実に真似(まね)ようとした。神に従ってその怒りを宥(なだ)め，恵みにあずかろうとした彼らの「マネび」は，学びの古いかたちである。やがてⓑ仏教が伝来すると，災厄などの苦は自らの悪業に起因するという考えから，様々な修行や仏典に対する理解を通じて，悟りや仏の救いを求める学びが模索された。しかし，天災や争乱が続き，末法思想が広まるなかで，人間の無力さとより深く向き合う者が現れる。例えば，ⓒ法然は，諸仏典を懸命に学んだ果てに，極楽往生への唯一の方途を，愚者として阿弥陀仏の本願を信じ，一心に念仏を称(とな)えることに見いだした。

戦国時代の混乱を経て，新たな安定した社会のあり方を模索した儒学者たちは，ⓓ古代中国の経書に示された人倫の秩序を実現するための学びに努めた。例えば，朱子学者たちは，天地を貫く理を窮め，聖人に至ろうとする修養が，よりよい秩序の形成につながると考えた。だが，伊藤仁斎は，こうした朱子学的な学びに，具体的なⓔ他者への愛を見失わせる危険をみた。『論語』や『孟子』の本旨を探究し続けた仁斎は，他者に対してその心を忖度(そんたく)し，偽りなく己を尽くす実践こそ，ⓕ人倫関係の充実につながる学びの基本である，と説くに至った。

近代以降，国民国家としての独立が切実な課題となった。ⓖ福沢諭吉はこれに応えて，国の独立のためには，西洋に倣って実用的な学問を修め，独立自尊の精神を身につけた，個人を確立することが必要であると訴えた。だが，西洋由来の実学や個人主義の急速な受容は，やがて，ⓗ自己や社会のあるべき姿をめぐる探究を，改めて人々に課すこととなる。例えば，和辻哲郎は，西洋の個人主義的人間観を一面的理解であると批判して，人間は個人的存在であると同時に社会的存在でもあるとし，「間柄」に注目する独自の倫理学を構想した。

このように，先人の学びは，それぞれの時代における困難な課題に向き合い続けるものであった。私たちもこれに倣って，単に知識を習得するためにとどまらず，よりよい生を求める学びを心がけることが，大切ではないだろうか。

問 1　下線部ⓐに関連して，次の文章は，神と関わりながら生きた古代の人々の心について述べたものである。 a ・ b に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。 20

古代において，祭祀の際に求められた，神に対する心の有り様は， a と呼ばれた。後に近世の国学者たちは，和歌や神話の研究を通じ，仏教や儒教を受容する以前の古代の人々の心を探究した。例えば，賀茂真淵は，『万葉集』の基調として素朴でおおらかな「 b 」を見いだし，それを理想と考えた。

① a　高く直き心　　b　清き明き心
② a　高く直き心　　b　真　心
③ a　清き明き心　　b　高く直き心
④ a　清き明き心　　b　真　心
⑤ a　真　心　　b　高く直き心
⑥ a　真　心　　b　清き明き心

問 2　下線部ⓑに関して，平安時代初期，仏教における学びの意義や方法を確立しようとした人物の一人として，最澄がいる。最澄についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 21

① 仏教の力によって国家の安泰をはかる鎮護国家の考え方を否定し，世俗を離れた奥山での学問と修行を重んじた。
② 各人の能力や資質によって到達できる悟りに違いがある，とする考え方を批判し，生あるものは等しく成仏し得る，と説いた。
③ 大乗菩薩戒を受けた者を官僧とするそれまでの制度を否定し，鑑真が伝えた正式な授戒儀式に立ち戻るべきだと主張した。
④ 入唐して天台の奥義・禅・密教を学び，帰国後，これらを総合した日本天台宗の教えを，主著『三教指帰』によって示した。

問 3　下線部ⒸⒸに関連して，次のア～ウは，法然と同様，当時の仏教に新たな展開をもたらした人物たちの思想の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 22

ア　親鸞は，阿弥陀仏の誓願を深く信じて念仏を称えよと説いた。彼の弟子の伝えによれば，これを実践できず，自力で悟ろうとする悪人こそ，救われるべき対象である。この教えは，悪人正機と呼ばれる。

イ　道元は，ただひたすら坐禅するべきことを説いた。彼によれば，身心を尽くして静かに坐(すわ)りぬく修行こそが，悟りという目的に達するための，最善の手段である。この教えは，修証一等と呼ばれる。

ウ　日蓮は，「南無妙法蓮華経」という七字の題目を唱えよと説いた。彼によれば，『法華経』こそが釈迦による究極の教えであり，唱題は，その功徳のすべてにあずかることを可能にする行である。

① ア　正　イ　正　ウ　正
② ア　正　イ　正　ウ　誤
③ ア　正　イ　誤　ウ　正
④ ア　正　イ　誤　ウ　誤
⑤ ア　誤　イ　正　ウ　正
⑥ ア　誤　イ　正　ウ　誤
⑦ ア　誤　イ　誤　ウ　正
⑧ ア　誤　イ　誤　ウ　誤

問 4　下線部ⓓに関連して，古文辞学に基づく経書解釈を提唱した儒学者に，荻生徂徠がいる。彼の著作として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

23

① 『弁道』
② 『聖教要録』
③ 『翁問答』
④ 『論語古義』

問 5　下線部ⓔに関して，近世の文芸や思想において，他者に対する関わり方を示した人物の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

24

① 人形浄瑠璃の脚本家であった近松門左衛門は，儒学的な人倫において重んじられる人情と，恋人に対する義理との間で苦しんだ男女が，最後には身を破滅させる物語を，共感的に描いた。
② 浮世草子の作者であった井原西鶴は，金銭欲や色欲にまかせて享楽的に他者と関わる生き方を，当時における町人の有り様として肯定的に描き出し，勤勉や倹約の意義を否定した。
③ 鍋島藩の武士であった山本常朝は，『葉隠』において，主君に対する絶対的忠誠とそれに根差した死の覚悟を説き，民に対する為政者としての自覚を求める士道とは異質の武士道を示した。
④ 国学の祖と言われる契沖は，事物にふれて動く感情をつくろわない，「もののあはれ」を知る人だけが，他者の悲しみに共感できるとし，情欲を制しようとする儒学的な道徳を批判した。

問 6　下線部ⓕに関連して，次の**ア**～**ウ**は，理想的な人倫や，それを実現するための実践をめぐる様々な考え方を示した，江戸時代の思想家についての説明であるが，それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 25

ア　近世の封建的身分秩序のなかで，善を実現するには，居敬窮理の工夫が必要であると説いた。居敬窮理とは，欲望を抑えて心身をつつしみ，天地や人倫の秩序を根拠づける上下定分の理を，明らかにすることである。

イ　農民に寄生する武士が支配者として上に立つ当時の社会を批判し，理想社会としての自然世へ復帰すべきであると説いた。自然世とは，すべての人々が平等に田畑を耕し，衣食住を自給する社会のことである。

ウ　農業とは天道と人道があいまって成立する営みである，との考えに基づき，勤労や倹約といったあるべき生活態度を説いた。天道とは自然の営みのこと，人道とは，そこから人間が恵みを得ようとする作為のことである。

① **ア**　藤原惺窩　　**イ**　安藤昌益　　**ウ**　石田梅岩
② **ア**　藤原惺窩　　**イ**　安藤昌益　　**ウ**　二宮尊徳
③ **ア**　藤原惺窩　　**イ**　貝原益軒　　**ウ**　石田梅岩
④ **ア**　藤原惺窩　　**イ**　貝原益軒　　**ウ**　二宮尊徳
⑤ **ア**　林羅山　　**イ**　安藤昌益　　**ウ**　石田梅岩
⑥ **ア**　林羅山　　**イ**　安藤昌益　　**ウ**　二宮尊徳
⑦ **ア**　林羅山　　**イ**　貝原益軒　　**ウ**　石田梅岩
⑧ **ア**　林羅山　　**イ**　貝原益軒　　**ウ**　二宮尊徳

問 7　下線部ⓖに関して，次の文章は，福沢諭吉が，西洋由来の学問を支える懐疑の精神について述べた一節である。ここに説かれた内容の説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 26

信の世界に偽詐多く，疑いの世界に真理多し。……文明の進歩は，天地の間にある働きの趣を詮索して真実を発明するにあり。西洋諸国の人民が今日の文明に達したるその源を尋ぬれば，疑いの一点より出でざるものなし。……東西の人民，風俗を別にし情意を殊にし，数千百年の久しき，おのおのその国土に行われたる習慣は，とみに*これを移すべからず。……西洋の文明もとより慕うべし。これを慕いこれに倣わんとして日もまた足らず**といえども，軽々これを信ずるは信ぜざるの優に若かず。……よく東西の事物を比較し，信ずべきを信じ，疑うべきを疑い，信疑取捨そのよろしきを得んとするはまた難きにあらずや。……学者勉めざるべからざるなり。

（『学問のすゝめ』より）

*とみに：急に　にわかに
**日もまた足らず：(そのための)時間も足りない

① 西洋文明は，既存の知識を疑い，真実を探ろうとする精神によって，進歩してきた。日本人もこれに倣うべきだが，軽々しく旧来の習慣を捨てて西洋文明を摂取しようとする態度は，否定されなければならない。

② 物事を信じるところには偽りが多く，むしろそれを疑うところに真実が見いだされる。日本人は西洋的な懐疑の精神に倣うべきであり，長い歴史のなかで根づいてきた習慣も，これを速やかに改めなければならない。

③ 西洋文明は，既存の知識を疑い，真実を探ろうとする精神によって，進歩してきた。しかし，最終的には，信じるべきものを信じることが求められる以上，懐疑の精神それ自体も疑われなくてはならない。

④ 物事を信じるところには偽りが多く，むしろそれを疑うところに真実が見いだされる。ただし，東西の文化はそれぞれ固有なものであり，長い歴史のなかで根づいてきた自国の習慣に限っては，これを疑ってはならない。

問 8　下線部ⓗに関連して，自己や，社会に生きる人々の有り様をめぐって様々に思索した，近代以降の思想家の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 27

① 西田幾多郎は，主観と客観を対立的に捉える哲学的立場を批判し，思索や反省以前の純粋経験を考究の出発点として，主観のみが確かであることを立証する『善の研究』を著した。

② 柳宗悦は，朝鮮陶磁器と出会ったことで，名のある芸術家が器や布などの日用品を作ることの素晴らしさに気づき，生活そのものを美的にすることを目指す民芸運動の推進者となった。

③ 柳田国男は，共同体に生きる無名の人々を常民と呼び，文字に残されない生活様式や祭り，伝承，あるいは祖霊信仰のなかから，彼らの思想を掘り起こそうとする民俗学を確立した。

④ 丸山真男は，新旧を問わず様々な考え方が雑居する日本の思想状況を批判し，文学や芸術に表現された直観を，哲学的思索によってつかみ直そうとする近代批評という分野を確立した。

問 9　本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 28

① 先人の学びが，各時代における様々な困難に向き合うものだったのに倣い，私たちも学びを通じて，現代社会が抱える課題に取り組まなければならない。そのためには，学びの原点である「マネび」に立ち戻り，先人の学問を忠実に模倣し続けることが大切だと言えよう。

② 日本において先人は，神仏や他者とのよりよい関わりを求めて学んできたが，そこには，知的な学びよりも信仰や実践によって困難に対処する，という特徴がみられる。これに倣えば，学びにおいては，知的な営みの無力さをわきまえ，信仰や実践に向かっていくことが大切だと言えよう。

③ 先人の学びが，神仏への信心に根差したものから，他者や社会との関係を重んじるものへと推移してきたなかで，人間が直面する困難は次第に軽減されてきた。この歩みを継承する私たちの学びにおいては，近代以降の学問をよりどころとして，よき生を求めることが大切だと言えよう。

④ 日本において先人は，各時代における様々な困難に向き合い，神仏や他者とのよりよい関わりを求めて学んできた。彼らの姿勢に倣えば，私たちもまた，今現在直面する困難から目を背けることなく，よりよく生きるための学びに努めていくことが大切だと言えよう。

倫　理

第４問　次の文章を読み，下の問い(**問１～９**)に答えよ。(配点　24)

「人間は理性的動物である」と言われる。理性の様々な働きのうち，科学技術をはじめ文明の進歩を支える側面は，特に大きな役割を担ってきた。西洋近代思想における理性に対する評価の変遷を，科学技術との関係を中心にたどってみよう。

中世では聖書や教会などの権威が真理の主要なよりどころとされてきたが，ⓐルネサンス期以降，真理の探究に関して，合理的な判断・認識能力としての理性が重視されるようになる。確実な知識は理性によって獲得されるとしたデカルトは，物質的世界は数学的に把握できると考えた。また，ⓑベーコンは，自然の組織的な観察を技術に結び付けることで，自然を支配し，生活を豊かにできると説いた。その後，理性に基づく自然法則の究明とその応用によって，科学技術が発展し，ⓒ産業革命をはじめとする近代化が進展した。そうした科学的思考法は，自然現象のみならず，ⓓ社会現象にも適用され，今に至っている。

だが，科学技術が発展する過程で，理性の問題点や限界を指摘する思想家も常にいた。啓蒙思想の時代にもⓔルソーは，人間や社会のあり方を考察する際に，理性より感情を重視して，文明化の問題点を指摘した。ルソーから人間を尊敬することを学んだⓕカントは，科学的思考法によって確実な知識が得られるのは自然の認識に限られ，それが及ばぬ領域もあると指摘した。彼は，道徳的領域における人間の自律性を確保しつつ，認識能力としての理性の範囲を限定したのである。

20 世紀になると，人類の存続をも脅かす核兵器や環境破壊など，科学技術の負の側面が表面化し，それに呼応するように近代文明を生み出した理性に対する批判が様々な形で噴出した。ⓖ構造主義は，西洋近代に顕著にみられる理性中心主義に異議を唱え，人間が理性的主体であるという考えを批判した。また，ⓗフランクフルト学派は，啓蒙を目指す理性が築いた文明のなかで，なぜ暴力的状況が生まれたのかを問うた。その第二世代は，この問いを引き継ぎつつ，人々が対等な仕方で討議に参加し，自発的な合意を目指す，対話的理性の可能性を示唆している。

科学技術が引き起こす諸問題を理由に，理性を全否定することはできまい。むしろ，科学技術の制御も含め，理性のあり方を再検討し，理性の意義や働きを多角的に探ることが，現代の重要な課題だと言えよう。

問 1　下線部ⓐに関して，ルネサンス期の説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 29

① ルネサンス期には，古代ギリシア・ローマの文芸を再生し，古典を学び直そうという運動が広く展開した。古典を模範とすることで，人間性を解放し，新たな人間像を探究する人間中心の文化が花開いた。

② ルネサンス期には，古典研究を通して，キリスト教世界の根源にある古代の異教的世界を再興しようという考えが現れた。自然を再発見することで，古代の神々を中心とする神話的世界観が復活した。

③ ルネサンス期には，美術の世界でも，遠近法が確立し，人体の写実的な描写が始まるなどの革新がみられた。「最後の審判」など，絵画や彫刻作品を数多く制作したミケランジェロは，建築の分野でも活躍した。

④ ルネサンス期には，人間の本性はあらかじめ定まってはいないという考えが現れた。ピコ・デラ・ミランドラは，人間は自由意志に基づいて自分の本性を形成する存在であるとし，そこに人間の尊厳の根拠をみた。

問 2　下線部ⓑに関して，ベーコンの著作と思想についての説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 30

① 『プリンキピア』を著し，地上から天体までのあらゆる自然現象の運動を説明し得る根本原理を発見することで，古典力学を確立した。

② 『プリンキピア』を著し，理性を正しく確実に用いることによって普遍的な原理から特殊な真理を導き出す演繹法を提唱した。

③ 『ノヴム・オルガヌム』を著し，事実に基づいた知識を獲得する方法として，経験のなかから一般的法則を見いだす帰納法を重視した。

④ 『ノヴム・オルガヌム』を著し，懐疑主義の立場から，自己の認識を常に疑う批判精神の重要性と，寛容の精神の大切さを説いた。

問 3　下線部ⓒに関連して，次の**ア**～**ウ**は産業革命がもたらした社会問題の克服を模索した思想家についての記述であるが，それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。 31

ア　経営者の立場から，労働者の生活や労働条件の改善に努めた後，理想社会の実現を目指してアメリカに渡り，共同所有・共同生活の村(ニューハーモニー村)を実験的に建設した。

イ　自由競争下での産業社会は統一性を欠いた無政府的なものであり，不正や欺瞞(ぎまん)に満ちていると考え，農業を基本とした，調和と統一のとれた理想的な共同社会(ファランジュ)を構想した。

ウ　フェビアン協会の指導者の一人であり，福祉政策の充実や，生産手段の公有化などを行うことによって，現代社会が抱える悲惨な状況を少しずつ改善していくべきであると主張した。

① **ア**　フーリエ　　**イ**　バーナード・ショウ
　ウ　オーウェン

② **ア**　フーリエ　　**イ**　オーウェン
　ウ　バーナード・ショウ

③ **ア**　バーナード・ショウ　　**イ**　フーリエ
　ウ　オーウェン

④ **ア**　バーナード・ショウ　　**イ**　オーウェン
　ウ　フーリエ

⑤ **ア**　オーウェン　　**イ**　フーリエ
　ウ　バーナード・ショウ

⑥ **ア**　オーウェン　　**イ**　バーナード・ショウ
　ウ　フーリエ

問 4　下線部ⓓに関連して，社会学の創設者コントの思想の記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 32

① 人間の知性は，環境に適応するための道具である。この創造的知性によって人間性を改善し，理想的な民主主義社会を作り上げねばならない。

② 人間においては，実存が本質に先立ち，あらかじめ決まった本性はない。このように自由な人間は，積極的に社会参加しなければならない。

③ 自由を本質とする精神は，まず個人の主観的精神として現れ，次に社会関係としての客観的精神となり，最後に両者を統一する絶対精神となる。

④ 人間の知識の発展は，神学的段階，形而上学的段階，実証的段階の三つに分けられ，その三段階は社会の進歩の三段階に対応している。

問 5　下線部ⓔに関して，ルソーの思想の記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 33

① 文明社会においては，あらゆるものが技術的な操作の対象とみなされることで，存在が何であるかを問うことは忘れられ，自然との関わりが失われている。だが，存在の呼びかけに耳を傾けることが大切である。

② 自然状態においては，人間は自由だが，他者と結び付き社会状態へと移行する際に，各自の権利を譲渡し，一般意志に委ねる。このようにして，共同の自我や意志をもった統一的な社会が成立する。

③ 幸福は量的なものに単純に還元することはできず，むしろ，精神的快楽の質のほうが重要な要素である。真の幸福とは献身の行為であり，見返りを求めることなく，社会や他者に役立つことが大切である。

④ 人間の心は，生まれたときには何も書かれていない，いわば白紙の状態である。したがって，生得の観念はなく，様々な観念は，感覚という外的な経験と，反省という内的経験によって与えられる。

問 6　下線部ⓕに関して，カントの批判哲学について述べた次の文章を読み，[a]・[b]に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。[34]

カントによれば，経験論も合理論も，人間の認識の成立条件を解明しておらず，そのために，前者は不可知論につきあたり，後者は独断論に陥る。このような反省から，カントは，人間理性の能力を検討し，認識能力の源泉と限界を明らかにしようと試みた。その主著[a]においては，「我々の認識はすべて経験とともに始まるとはいえ，それだからといって我々の認識がすべて経験から生ずるのではない」と述べられている。この一文は，[b]の働きがなければ，いかなる対象も与えられないが，対象を客観的に捉えるための枠組みが経験に先立って存在しなければ，認識は成立しないということを意味している。

① a 『人間悟性論』　b 悟　性
② a 『人間悟性論』　b 感　性
③ a 『人間悟性論』　b 意　志
④ a 『純粋理性批判』　b 悟　性
⑤ a 『純粋理性批判』　b 感　性
⑥ a 『純粋理性批判』　b 意　志

問 7　下線部ⓖに関して，構造主義の代表的思想家にレヴィ＝ストロースがいる。次のア～ウのうち，彼の思想を正しく説明したものはどれか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑦のうちから一つ選べ。 35

ア　西洋における科学技術文明の絶対化を批判し，「野生の思考」と科学的思考の間に優劣はないと主張した。

イ　理性的思考を言語の観点から考察し直し，言語活動は一定の規則に従う「言語ゲーム」であり，共同体において習得されるとした。

ウ　「未開社会」における親族や神話などの研究を通して，個人の主観的意識を超えたシステムが存在していることを見いだした。

① ア　② イ　③ ウ
④ アとイ　⑤ アとウ　⑥ イとウ
⑦ アとイとウ

問 8　下線部ⓗに関して，ホルクハイマーとアドルノの次の文章を読み，その説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 36

啓蒙とは，呪術的世界観から人間を解放することを目指す営みであった。それまでの神話を解体し，知識によって空想の権威を失墜させようとしたのである。とはいえ，様々な神話は，それ自体も啓蒙自身が作り出したものだった。事物が科学的に計算されるものとなると，かつて神話が与えていた説明は，無効を宣告される。神話は啓蒙へと移行し，認識する主体は自然を客体として支配できるようになる。こうして，概念に捉えきれないものは切り捨てられ，首尾一貫した体系が作り上げられる。

啓蒙が事物に対して取る態度は，独裁者が人間に対して取る態度と変わるところはない。独裁者が人間を認識するのは，彼が人間を操作することができる限りである。科学者が事物を認識するのは，彼がそれらを製作することができる限りである。

（『啓蒙の弁証法』より）

① 人間を自然の脅威から救い，支配者の位置につけるのが啓蒙の目的だったが，今やその目的は果たされ，啓蒙と神話は対等の関係になった。科学は事物の認識を目指すのであり，人間を支配するわけではない。

② 神話とは異なり，科学は確実な知識の獲得を目指すが，非論理的にみえる神話的思考も啓蒙と無縁だったわけではない。啓蒙の根底には，知識を得ることによって，対象を効率的に操作しようとする意図がある。

③ 啓蒙は，神話を否定的に捉えるとはいえ，神話の基底にある説明の機能に関しては積極的に評価する。こうして神話は啓蒙へと移行し，さらなる進歩が可能となり，自然は科学者にとって客体となったのである。

④ 神話と科学という暫定的な思考法は啓蒙によって生み出されたが，神話は説明し，科学は計算する点が異なる。それにもかかわらず，認識主体としての科学者は，独裁者と協力して，自然を掌握しようとする。

問 9　本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 37

① 理性とは，合理性に基づいた対話的精神であり，それを用いることによって，文明は飛躍的に発展してきた。だが，理性がもたらす負の様々な現象に対して異議申し立てが相次ぎ，理性の機能低下が叫ばれている状況に鑑み，今後は危機管理を徹底することが重要である。

② 理性によって自然の諸現象が科学的に把握されることで，科学技術が発展し，物質的豊かさへの道が開けた。とはいえ，近代文明がもたらした負の側面に対する批判も多い現在，様々な観点から理性を見直して，理性とどう関わるべきなのかを吟味する必要があろう。

③ ルネサンス期以降，理性は人間の感情や社会の働きを理解するための方法として，どの時代においても重要視されてきた。しかし，人間の生を解明するためには，感情や意欲もまた重要なことは確かであり，科学なしの世界にいったん戻って，理性との関わりを再検討する必要があろう。

④ ルネサンス期から現代に至るまで，理性は科学技術を進歩させ，文明の発展に寄与した。このように，感情や意欲を制御する理性は精神機能の中枢であるから，これまでと同様に科学技術を信頼しつつ，さらなる発展を目指していくことで，人間性を追求することが重要である。